



インクルーシブな

みんなのまちは、あなたのアクションから

よこはましふくし すいしんししん れいわ ねんど ねんど
横浜市福祉のまちづくり推進指針(令和3年度~7年度)

れいわ ねん がつ
令和3(2021)年3月

ガイド

〈わかりやすい版〉

わたしたちは こんな横浜をつくりたい

よこはまし 横濱市は、よこはま 横濱を
どんなひと 生活しやすいまちに
していきたいと かんが 考えています。
そのために よこはまし 横濱市は、
「ふくし 福祉の まちづくり」にとりく 取り組んでいます。
よこはまし 横濱市は「ふくし 福祉の まちづくり」で
つぎ 次のような まちにしたいと かんが 考えています。

- ▶ みんなで いっしょ 一緒になって とりく 取り組むまち
- ▶ さまざまなひと 人たちが おたが 互いをたいせつ 大切にするまち
- ▶ みんなが あんしん 安心して じゆう 自由にせいかつ 生活できるまち

みなさんにも「ふくし 福祉の まちづくり」のことを
かんが 考えてほしいと おも 思っています。



横浜市が大切にしている4つのこと

横浜市が目指す「福祉のまちづくり」。
それを進めていくために、
横浜市では4つの大切なことを決めました。
これを「ポリシー」といいます。

この4つのポリシーを、
横浜市はみなさんと一緒に
進めていきたいと考えています。

ポリシー1 みんな違ってあたりまえ

障害のある人や外国人、子ども、お年寄りなど
さまざまな人たちがお互いを大切に思うこと。

ポリシー2 一緒に活動する

さまざまな人たちが、一緒に活動しながら、
お互いのことをよく知ること。

ポリシー3 まずはやってみる

一人ひとりが自分のできることを考え、
実際にやってみること。

ポリシー4 もっともっとバリアフリー

建物や設備のバリアフリーを進めるだけでなく、
バリアフリーに関する情報を必要な人に届けること。



みんな^{ちが}違って あたりまえ



まわりの人^{ひと}が
かんが 考^{かんが}えていることを し^しらう

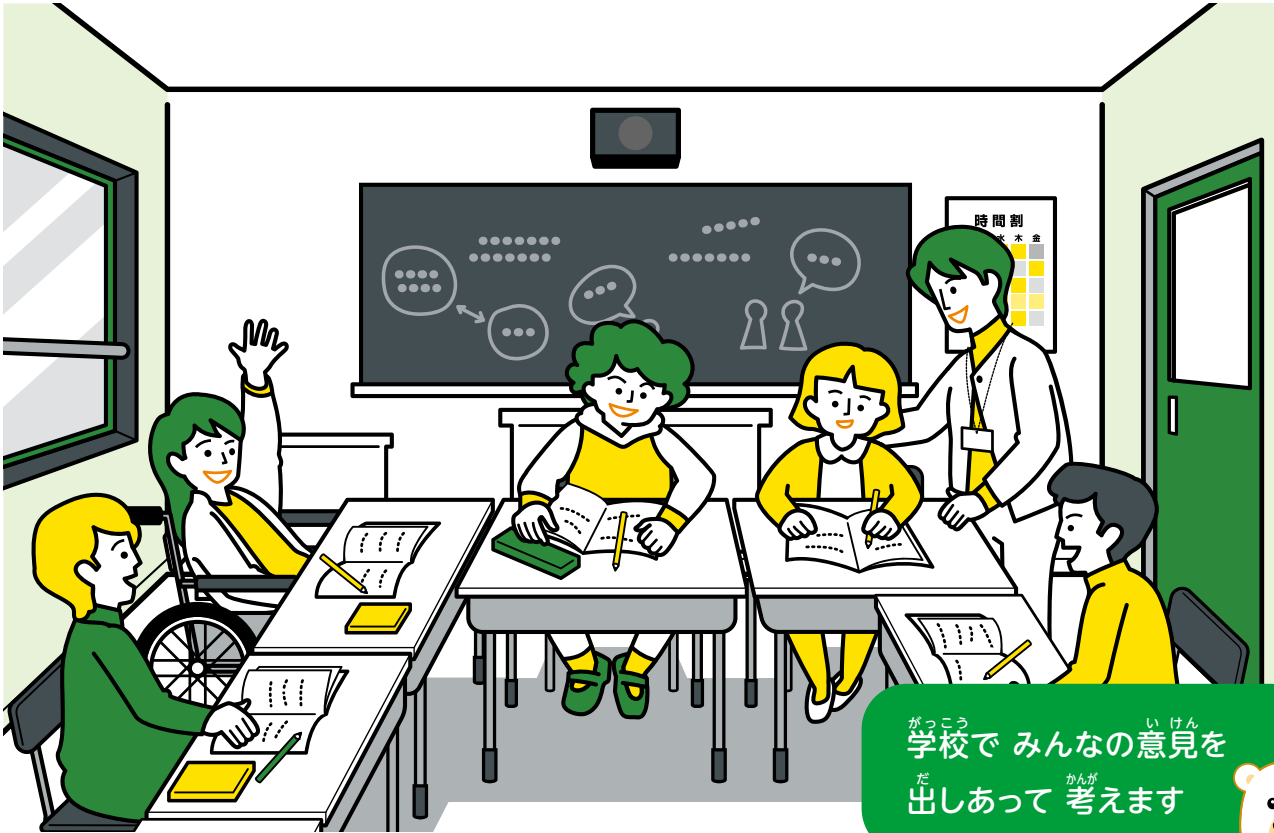
自分^{じぶん}の考^{かんが}えを
お 押^おしつけないようにしよう

どん^{ひと}な人^{ひと}でも参^{さん}加^かできる
しゃかい 社^{しゃかい}会^{かい}をつくらう

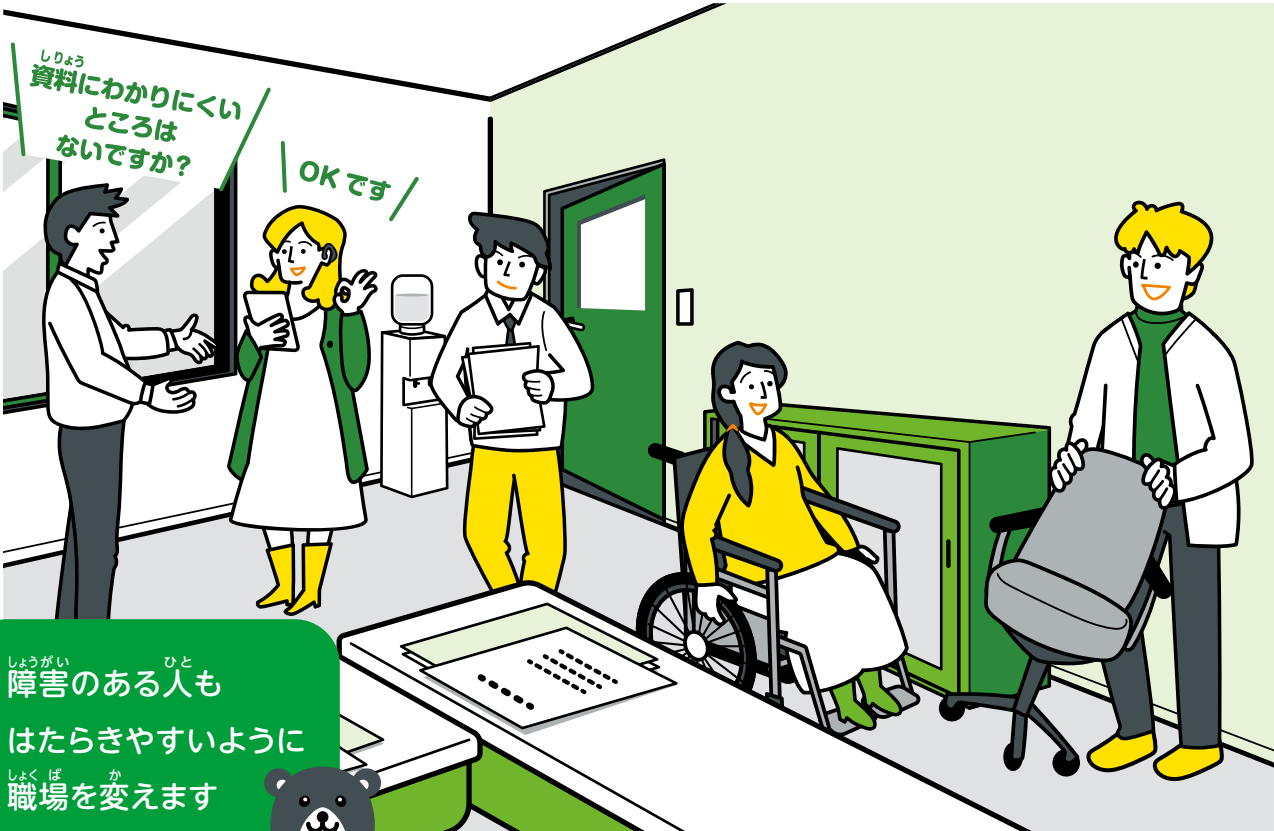
▶ わたし 私^{わたし}たちは みんな
ちが 違^{ちが}った考^{かんが}え方^{かた}をもっています。
みんな 違^{ちが}うのが あたりまえです。
あいて 相^{あいて}手^てのこ^ことを よく知^しらないのに
「相^{あいて}手^てが 間^ま違^{ちが}っている」と
き 決^きめつ^めけるのは
よくあ^ありませ^せん。

▶ ひと 人^{ひと}はそれぞれ、
たいせつ 大^{たいせつ}切^{けつ}なこ^こと、で^できるこ^こと、
おも した^{おも}いと思^{おも}うこ^ことが
ちが 違^{ちが}います。
せいかつ 生^{せいかつ}活^{かつ}のしか^{しか}たや じ^しご^{ごと}と、
にんげんかんけい 人^{にんげんかんけい}間^{かんけい}係^{けい}も ちが 違^{ちが}います。
どん^{ひと}な人^{ひと}でも参^{さん}加^かできる社^{しゃかい}会^{かい}を
つく^{つく}ってい^いくこ^ことが 大^{たいせつ}切^{けつ}です。

たとえば…



がっこうで みんなの意見をだしあって考えます



障害のある人もはたらきやすいように職場を変えます



いっしょ かつどう
一緒に活動する



たくさんの人たちと
知りあおう

いっしょ かつどう
一緒に活動して
ほかの人のことをもっと知ろう

おたがいが 大切だと思える
社会をつくろう

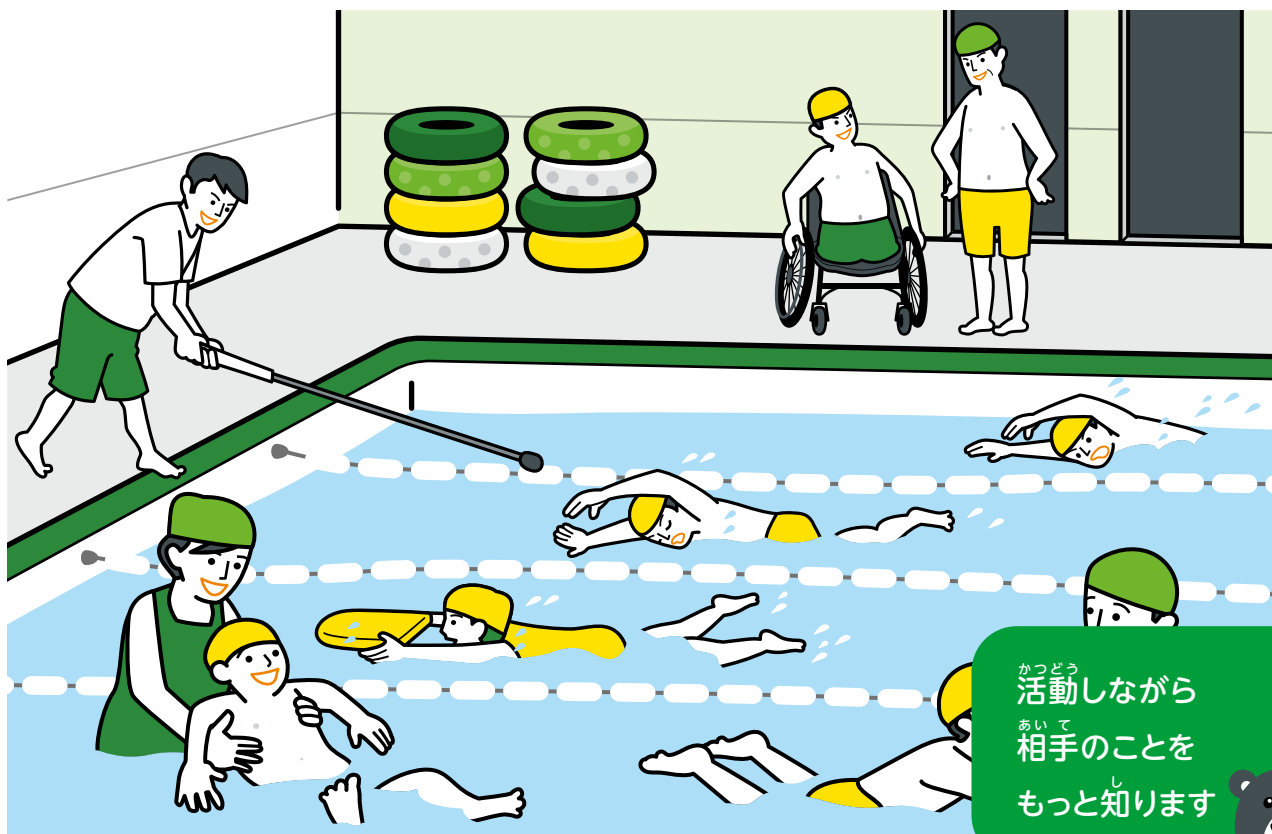
▶ 同じ趣味の人と集まったり、
いっしょ ちいき かつどう
一緒に地域で活動したりすると、
たくさんの人たちと
知りあいになれます。
また、子どものころから
きんじよ ひと なか
近所の人たちと仲よくしていると、
おとな
大人になっても
なか
仲よくできるはずですよ。

▶ どんな人とも
おたがいのことを大切だと
おも
思えるようになるためには
たくさんの人たちと
知りあうことが大事です。
あいて
相手のことをよく知り、
じぶん
自分のことも知ってもらい、
おたがいのことを
たいせつ おも しゃかい
大切に思える社会を
つくっていきましょう。

たとえば…



ぼうさいくねん
防災訓練で
たくさんの人たちと
知りあいます



かっとう
活動しながら
あいて
相手のことを
もっと知ります



まずは やってみる



^{じぶん}自分が^{かんが}できることを
考えてみよう

^{たす}「助けてほしい」と
^い言ってい

^{すこ}みんなで少しずつ
できることをしよう

▶ ^{あいて}相手のことを^{たいせつ}大切に^{じぶん}するために、
まずは ^{かんが}自分が ^{かんが}できそうなことを
考えてみましょう。
ちょっとしたことでも
^{こま}困っている人の
^{たす}助けになるかもしれません。
^{じぶん}自分が ^{こま}困っているときも、
^{えんりよ}遠慮せずに「^{たす}助けてほしい」と
^い言ってい

▶ ^{ひとり}一人ひとりが ^{むり}無理せずに
できることをしながら
^{ささ}支えあえるまちに
していきましょう。

たとえば…



おもにもつ
重い荷物を
はこぶのを
てつだ
手伝います



たか
高いところにある
もの
物を取るときに、
てつだ
手伝います



もっともっとバリアフリー



バリアフリーを進めよう

設備や建物の情報が
伝わるようにしましょう

みんなの意見で
もっとバリアフリーに

▶ 町中の設備や建物などが
もっと使いやすくなるように
バリアフリーを進めていきましょう。
そして、設備や建物がどこにあるか、
どうすれば使えるか、
必要とする人に
伝わるようにしましょう。
たとえば、目が見えない人のために
音声をつける、
日本語が読めない人のために

イラストやマークをつける
などです。

▶ 実際にその設備や建物を
使う人の話を
聞くことも大切です。
使ってみてどう感じたか、
どうすれば
もっと使いやすくなるか、
みんなの意見が
バリアフリーにつながります。

たとえば…



だんさ
段差ではなく
スロープにします



おんせい
音声やマークで
わかりやすく
あんない
案内します



「ふくまちガイド」ってなに？



ふくまちガイド



ふくまちガイド(実践編)^{じっせんへん}

- ▶ 横浜市では 1997 年に
「横浜市福祉のまちづくり推進指針」をつくりました。
これは、横浜市が「福祉のまちづくり」のために
必要だと考えることを書いたものです。
- ▶ 「横浜市福祉のまちづくり推進指針」は、
3～5年ごとに見直されます。
2021 年のものから、
「ふくまちガイド」という名前を付けました。

発行年月 令和4(2022)年3月
発行 横浜市健康福祉局 地域福祉保健部 福祉保健課
電話 045-671-2387
FAX 045-664-3622

